

令和元年度学校評価最終報告書

廿日市市立七尾中学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
グローバル社会に求められる、基礎的な知識・技能の習得と主体的に学び課題を解決する力及び思考力・判断力・表現力を育成する。	◎主体的に学び、課題を解決する力が身についている。 【市共通項目】	・課題発見・解決学習を各教科各学年1回以上実施する。 ・「書き切らせる」指導を行なう。	全国学力・学習状況調査ので 60%以上正答した生徒の割合を 66%以上にする。【市共通項目 66% H32】	66%	59.1%	59.1%	89.5%	B	教科によって達成度が異なる。基礎的な内容の習得と、知識を活用した表現活動を、バランスよく行う必要がある。	発表を積極的に行う生徒が少ない。1問1答式の発表は、多数挙手があるが、考えを発表する時には挙手が少ない。授業に全くついていけない生徒もいると思うが、夜遅くまでSNSや動画視聴をしているのではないかと心配だ。保護者と連携して、生活リズムを整える方法を考えていければ、学力向上も難しいだろう。	授業改善に取り組む時に、「考えを説明したり書いたりする」力の育成に重点を置いて、具体的な取り組みを行っていく。 学習のつまずきによる中1ギャップを解消するためにも、小中の連携を一層強めたい。家庭学習の習慣化や授業にむかう姿勢づくりなどについて、共通取り組み事項を決めて取り組む。
			主体的な学びに関する生徒質問紙の肯定的回答の割合を 70%以上にする。	70%	79.1%	79.1%	113.0%	A			
	◎自分で思考し、判断し、表現できている。「感・考・行」 【小中共通】	・探究・分析、説明、プレゼンテーション、表現する等の学習活動を意図的に普通の授業に取り入れる。	「理由をつけて考えを説明(表現)することができている」と回答した生徒の割合を 80%以上にする。 【小中共通】	80%	63.7%	65.5%	81.8%	B	授業の中で課題を解決していく過程を大切に、理由をつけて説明しあう場を設ける。		
お互いに認め合える集団づくりを進め自己有用感を高めることによって、問題行動の未然防止を図るとともに学ぶ意欲を高める。	◎生徒の自己有用感が高まり、お互いのよさを認めあっている。 【市共通項目】	・「ほめほめの木」の活動をベースにし、授業や生徒会活動でお互いのよさを伝え合う機会を設定する。	自分のよさは、まわりの人から認められると回答した生徒の割合を 70%以上にする。【市共通項目 70% H32】	70%	67.0%	68.0%	97.1%	B	行事などでは、自己有用感が高まる生徒も、学習面では不安を抱える場面もある。 新たな不登校生徒も増加しているが、取組の中で登校する生徒も。継続して取り組む。	授業によっては良い所も見られるが、もっと、自己表現できる生徒を育ててほしい。 中学校に入り不登校になる生徒もいる。小中連携を進め中学校に入ってスムーズに学校生活を送れるようにしてほしい。	生徒指導の三機能に基づく授業を追求し、主体的に授業に参加できる環境整備を行う。 小中連携、教職員の連携、保護者との連携を深める中で、様々な課題について未然防止ができるように取り組む。
			不登校生徒の割合を 3.58%以下にする。 【市共通項目 2.50% H32】	4.26% (17名) (4.66%H30)	1.75% (7名)	3.5%	84.0%	B			
教職員の子どもと向き合う時間を確保し、教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境をつくる。	働き方改革を推進し、長時間勤務を縮減する。 【市共通項目】	・予防及び早期対応による生徒指導に関する時間の縮減 ・会議時間及び行事等の工夫、見直し ・管理職による面談	子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合を 70%以上にする。【市共通項目 80% H33】	70%	25.0%	42.1%	60.1%	C	学年でまとまり生徒指導を行っているが、直前で取組むことが多く多忙感がある。計画的に取組む必要がある。 特定の教職員の在校時間が長く、指導後も変わらない。業務の整理、分担、引継ぎが必要である。	先生方がお忙しいのは十分に分かっています。社会も働き方改革が主流になっていきます。先生方も働き方を振り返り、やりがいをもって働き、健康には気をつけて生徒のためにこれからもがんばっていただきたい。	教育計画を早めに周知して、学年、クラスで計画的に取組み、組織的な対応ができるよう、進捗管理を適切に行っていく。 教職員が達成感、やりがいを持てるために、計画的にスモールステップで、各自が具体的な目標を立てて取り組む。
			時間外勤務時間が、月平均 80時間を越える教職員の割合を 20%以下にする。【市共通項目 0% H33】	20% (35.7%H30)	21.5%	13.0%	153.8%	A			

評価規準：目標値に対する達成度 A：100%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満 (※「◎」本年度の重点項目)